交差点の右左折では、まわりに十分な注意をはらいましょう

交差点ではクルマやバイク、自転車、歩行者が飛び出してくるかもしれないと
まわりの交通状況を予測しながら速度を落とし、安全を確認しながら走行しましょう。

右左折のポイント

早めの合図をする

右左折の合図はあらかじめまわりの安全を確かめてから交差点の 30m手前で出しましょう。早く合図を出すことは、安全運転にもつながります。

右折のポイント

対向車の陰にいるバイクを予測する

交差点で右折を始めたとき、対向車の陰からバイクが急に飛び出してくることがあります。対向車の陰にも注意しましょう。

歩行者や自転車にも注意する

交差点では、対向車に気をとられがちです。横断歩道を渡ってくる歩行者や自転車にも注意して右折を開始しましょう。

左折のポイント

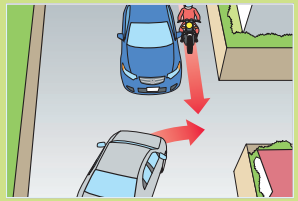
まき込み事故に注意

左折するときは、左後方から走行してくるバイクや自転車をまき込まないように、できるだけ左側端に寄り徐行しましょう。横断歩道を渡っている歩行者にも注意が必要です。

Safety one point

気をつけたいサンキュー事故

対向車から道を譲られて、よく確かめずに右折したところ、対向車の陰から走ってきたバイクと事故になることがサンキュー事故です。「ありがとう(サンキュー)」の気持ちが、ドライバーの注意力を低下させてしまいます。道を譲られたときでも、安全確認をしてから右折しましょう。



距離の錯覚に注意

バイクはクルマに比べて車体が小さいため実際の距離よりも遠くにいるような錯覚をしてしまうことがあります。電柱や道路の白線、まわりの建物を目安に用いて対象との距離を見極めるようにしましょう。

お客様相談センターはこちら！➡ イイフレアイオ 0120-112010

カーブや坂道は、速度に 十分注意しながら走行しましょう

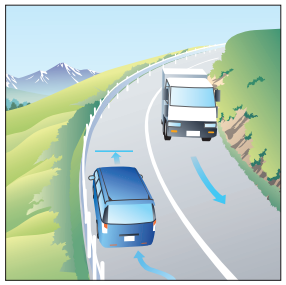
カーブではその先が見えないため予期せぬ危険が潜んでいます。
見えている範囲で安全に停止できる速度まで十分に減速して走りましょう。
カーブや坂道では速度をきちんとコントロールすることが安全運転のポイントです。

カーブの手前では十分な減速を

カーブを曲がるときには、速度が高くなるほど遠心力が大きくなり、クルマは車線外にはみ出しやすくなります。
カーブ手前の直線部分で十分な減速をすることが大切です。

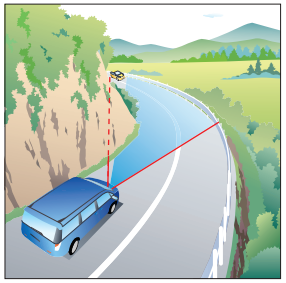
カーブでの安全運転のポイント

①カーブの手前で十分速度を落とす
②カーブ内では、できる限り急なブレーキ操作はしない
③カーブでは、常に対向車を意識し、追い越しはしない
④カーブ内では、原則として一定の速度で走る



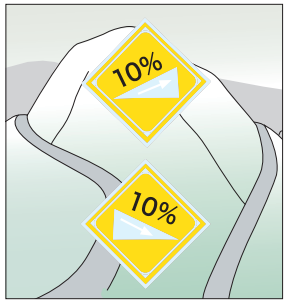
カーブの走行もキープレフト

すれ違う対向車が道路の中央からはみ出してくることを予測しながら、カーブの走行についてもキープレフトで走りましょう。



カーブの先を予測して走行

カーブでは、先の状況が見えないので、カーブの先にある障害物や停止車両を予測し、安全に停止できる速度で注意して走りましょう。



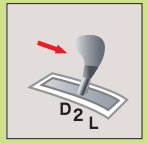
上り坂、下り坂は速度に注意

ゆるやかな勾配の坂道では、上り坂では速度が落ち、下り坂では速度が出やすくなるので、速度変化に注意しながら運転しましょう。

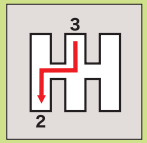
Safety one point

下り坂では エンジンブレーキの使用を

長い下り坂で、フットブレーキを使いすぎると、ブレーキが加熱して、ブレーキ液が沸騰しパイプ内に気泡が発生する「ベーパー・ロック現象」や、熱のためブレーキパッドの摩擦係数が極端に小さくなる「フェード現象」が起きて、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。オートマチック車は勾配に合わせて Dレンジ以外の低速レンジに、マニュアル車は低速ギアに落とし、エンジンブレーキを使いながら走りましょう。



オートマチック車



マニュアル車

お客様相談センターはこちら！➡ イイフレアイオ 0120-112010

高速道路では、まわりの クルマの動きに注意して走りましょう

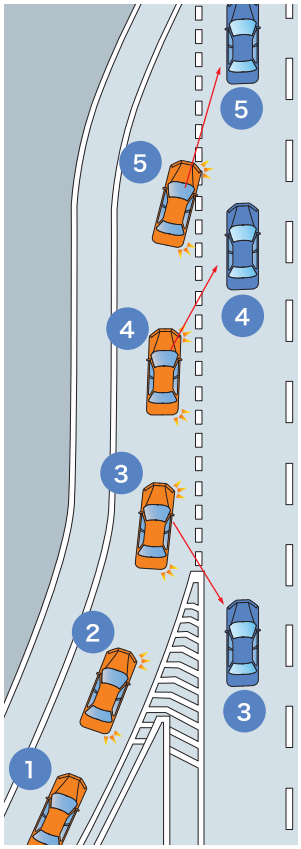
高速道路では、安全に走るために十分な車間距離をとり、流れに合わせて走ることが大切です。
インターチェンジやサービスエリア付近では合流してくるクルマの動きにも注意して走りましょう。

■本線走行時のポイント

合流してくるクルマに注意

本線の一番左の走行車線を走っていて合流地点が近づいてきたら、合流してくるクルマの動きに注意しましょう。後ろのクルマを確認して安全であれば、合流地点の手前で追い越し車線に移っておくと安心です。車線変更ができないときは、速度を調節して前のクルマとの車間距離をあけ、合流してくるクルマの無理な進入に注意しましょう。

■合流時のポイント



〈加速車線〉　〈本線〉

1. 加速車線に先行するクルマがいたら、速度を落として車間距離をあけます。
2. 加速車線の手前にきたらウインカーを出し、本線のクルマの流れを確認します。
3. 加速車線を十分に使って加速しながら、ドアミラー（目視）で本線のクルマを確認。どのクルマの後に入るか目標を決めます。
4. 合流点が近づいてきたら、目標のクルマの斜め後方につくように速度を調節します。
5. ハンドル操作は緩やかに行い、直接目で後ろのクルマの安全確認をして合流します。

Safety one point

ETC を利用するときに注意すること

- ETC カードの有効期限を事前に確認し、カードを車載器に確実に挿入します。
- ETC専用レーンに時速20km以下に減速して進入。前車が停止することがあるので、車間距離をとってゆっくり走行します。
- 開閉バーが開いたことを確認して通過します。
- 防犯上、クルマから離れるときは車載器から ETC カードを抜き取り、運転者自らが携帯するようにしましょう。

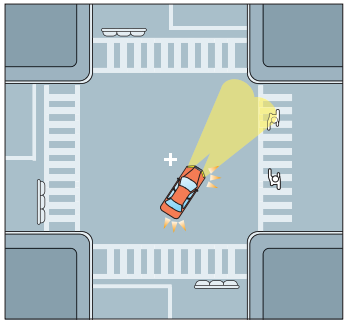
お客様相談センターはこちら！➡ 0120-112010（イイフレアイオ）

夜間の運転は、昼間より 慎重な運転を心がけましょう

**夜間走行では、目（視覚）から得られる道路情報は昼間に比べると大幅に減少します。
速度を昼間の走行より抑えめに、いつでも安全に停止できる速度で走りましょう。**

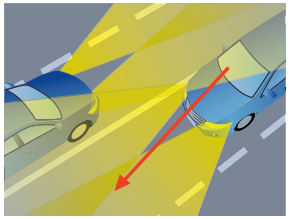
見えにくい色の歩行者の服装に注意

夜間は黒やグレーなどの濃色系の服装は非常に見えにくくなります。路肩にライトを消して駐車しているクルマ、無灯火で走る自転車なども同様です。見えにくいと感じたら、まず速度を十分に落として走りましょう。



ヘッドライトの照射範囲

ヘッドライトは直線的にしか前方を照らせません（AFS〈アダプティブ・フロントライティングシステム〉装備車を除く）。右左折時など、ヘッドライトの照らす方向が進行方向からずれて一瞬見えにくくなります。ライトの照射範囲外に歩行者や自転車がいないか注意しましょう。

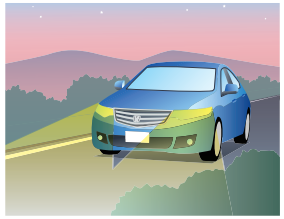


対向車のライトを直視しない

対向車のライトがまぶしいときは、視点をやや左前方に移して、目がくらまないようにしましょう。対向車とすれ違うときは、ヘッドライトをロービームに切り替えて運転しましょう。

蒸発現象とは

夜間、信号のない横断歩道などで対向車とすれ違うとき、お互いのライトの影響により、歩行者や自転車が一瞬見えなくなることがあります。これを蒸発現象と呼びます。対向車が近づいてきたときには速度を十分に落とし、歩行者や自転車がいないかを確認しましょう。



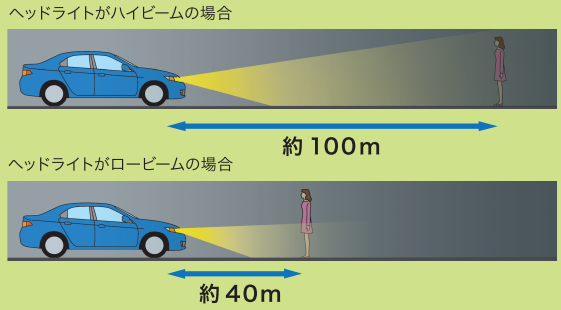
早めにヘッドライト点灯を

夕暮れどきは早めにヘッドライトを点灯して視界を確保しましょう。また、まわりのクルマや歩行者などに、自分のクルマの存在を知らせることにもつながります。

Safety one point

ヘッドライトの照射距離

ヘッドライトはハイビーム時で約100m、ロービーム時で 約40m前方の障害物を確認できる程度の明るさしかありません。夜間は昼間より速度を落とし、障害物を発見しても安全に停止できる速度で走るようにしましょう。車間距離も十分にとって慎重に走ることが大切です。



お客様相談センターはこちら！➡ イイフレアイオ 0120-112010

雨の日は、晴れた日よりも速度を落として、慎重な運転を心がけましょう

**雨の日は、視界が悪く、滑りやすい濡れた路面を走行することになります。
歩行者や自転車の視界も悪くなるので、急な飛び出しなどに備え速度を落とし、
車間距離を十分にとって慎重に走りましょう。**

ヘッドライトの点灯を

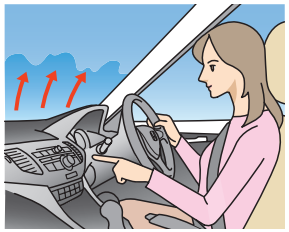
雨の日は、昼間でも暗いので早めにヘッドライトを点灯しましょう。ヘッドライトを点灯することによって、視界がよくなるだけでなく、まわりのクルマや歩行者に自分のクルマの存在を知らせることができます。まわりに注意を促すことで、安全な運転にもつながります。

降り始めが滑りやすい舗装道路に注意しましょう

雨が降り始めると、舗装道路上のほこりや砂が雨水により浮いてきて滑りやすくなります。工事現場の鉄板やマンホール、横断歩道などの白線、電車のレールなども滑りやすくなるので、注意しながら走りましょう。

歩行者や自転車に注意しましょう

雨の降り始めは歩行者や自転車が先を急ぎ、安全をよく確認しないで車道に飛び出してきたりすることがあります。また、傘をさしている歩行者の視界も悪くなるため、まわりの動きに十分注意しながら走りましょう。



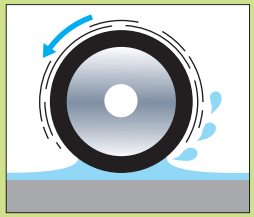
フロントガラスが曇ったら

雨の日はフロントガラスが曇りやすくなります。曇り止め（デフロスター）を使って効果的に曇りをとりましょう。またフロントガラスを日頃からきれいにしておくと、曇りにくく、曇った場合においても早くとりのぞくことができます。

Safety one point

ハイドロプレーニング現象

タイヤと路面の間に水の層ができ、水の上を滑走するような状態になるのがハイドロプレーニング現象です。高速度で水の溜まったわだちを走ると、この現象が起こることがあり、ブレーキやハンドルが効きにくくなるおそれがあります。雨の日は晴れた日よりも速度を落として走りましょう。
空気圧の不足したタイヤや摩耗して溝がなくなったタイヤは、この現象がおきやすくなるので、こまめにタイヤの点検を行いましょう。



お客様相談センターはこちら！➡ イイフレアイオ 0120-112010

雪道では急な運転操作 と速度を控えましょう

雪が降っているときは視界が悪くなります。雪道や凍結した道路では大変滑りやすく危険です。急発進、急ブレーキ、急ハンドルなど急のつく操作は控えて、路面状況に注意しながら、速度を落とし十分な車間距離をとって走りましょう。

視界の悪化に注意

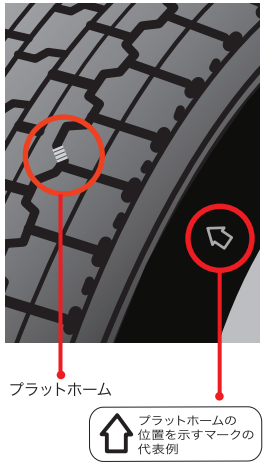
降雪時は前方の視界が悪くなり、ドアミラーやウィンドーにも雪が付いて、側面や後方の視界も悪くなります。
晴れているときでも、地面の雪が舞って急に前方が見えづらくなることがあります。
右左折するときなど、特にまわりの安全確認を心がけましょう。

交差点が近づいたら早めに減速

赤信号の交差点あるいは見通しの悪い交差点に近づいたら早めに減速しましょう。

カーブの手前では十分な減速

雪道では、速度を落して走ることが重要です。速度が高いとスリップするおそれがあります。カーブでは手前の直線で十分に減速し、速度を一定に保ちながらスムーズにカーブを通過しましょう。



スタッドレスタイヤは四輪全てに装着

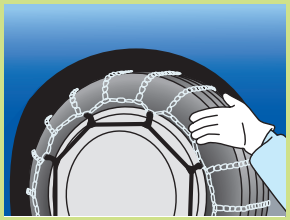
スタッドレスタイヤは必ず四輪全てに装着しましょう。プラットホームが現れたら、冬用タイヤの性能を発揮しないおそれがありますので、早めに交換しましょう。

＊詳細については、装着したタイヤのカタログまたは、タイヤメーカーのHPでご確認ください。

Safety one point

チェーンは安全な場所で装着

雪道や凍結した道路では、必ずタイヤチェーンやスタッドレスタイヤなど、雪道に適したものを使用しましょう。タイヤチェーンには金属チェーンとゴムやプラスチックなどの非金属チェーンがあります。タイヤチェーンの装着は、早めに安全で平坦な場所で行いましょう。装着は駆動輪に行います。FF 車なら前輪、FR車なら後輪になります。あらかじめ取扱説明書で駆動輪を確認しておきましょう。

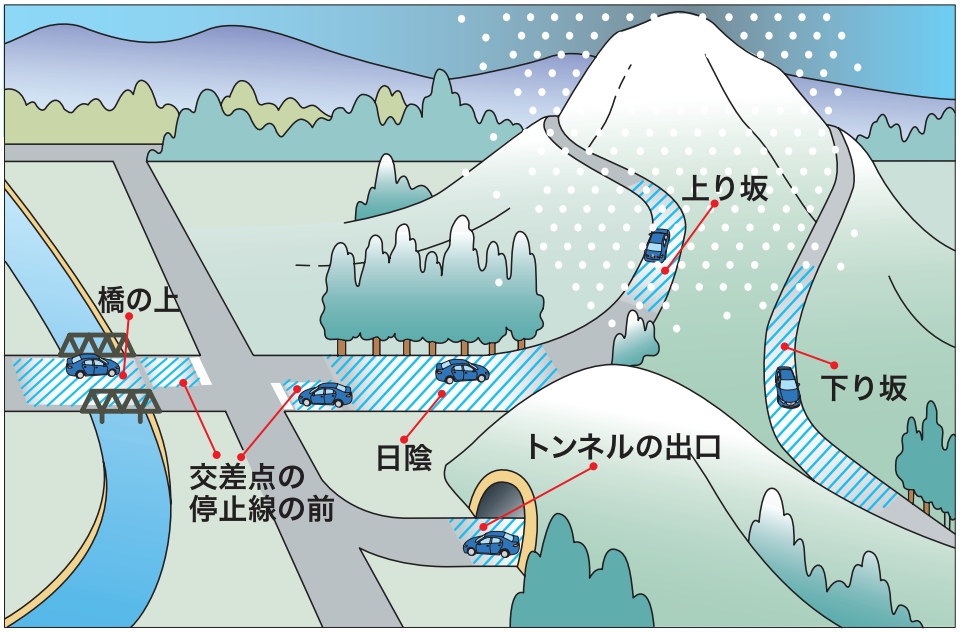


お客様相談センターはこちら！➡ イイフレアイオ 0120-112010

凍結しやすい雪道を覚 えておきましょう

**雪道といっても路面状況は気温や雪質によって刻々と変わります。
山間部などでは雪がない道路でも、カーブを曲がると路面に雪が積もっていたり、
凍結していたりすることがあります。
凍結しやすい場所は、十分に注意して慎重に走りましょう。**

■雪道走行で気をつけたい場所



橋の上
風が吹きさらしになる橋の上は、凍結しやすい場所です。

交差点手前の停止線部分
発進と停止の繰り返しで、積もった雪が踏み固められて凍結し滑りやすくなっています。

日陰
積もった雪が解けずに残り、凍結していることがあります。

上り坂
上り坂途中での発進は慎重にしましょう。アクセル操作を誤るとスピンするおそれがあります。

トンネルの出口
長いトンネルの出口では、入口と気象状況、路面状況が変わっていることがありますので注意しましょう。

下り坂
速度は十分に落とし、ブレーキ操作は慎重に行いましょう。特に、前輪にチェーンを装着するＦＦ車の場合、前輪と後輪のグリップ力に差が出るおそれがありますので、注意して走りましょう。

雪道はどんな路面状態でも、十分に減速して走ることが原則

雪が積もった路面や、その雪がシャーベット状に変化しさらに凍結した路面になるなど、雪道は刻々と状況が変化します。どんな路面状態でも、ゆっくり慎重に走行することが原則です。

圧雪路
積もった雪をクルマのタイヤが踏み固めた路面です。路面上に雪が降り積もった場合は、滑りやすくなります。

シャーベット状の路面
積もった雪が解けはじめている状態の路面です。水と氷とが入り交じった路面は滑りやすくなります。

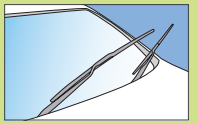
アイスバーン
気温の上昇やクルマの通行などで解けた雪が、夜間の冷え込みなどで凍結した滑りやすい路面の1つです。

Safety one point

寒冷地で駐車するときの注意点

寒冷地ではクルマを駐車するときも、ちょっとした気づかいが必要です。いざというとき、困らないように知っておくと便利な駐車の知恵です。

- **ワイパーは立てておきましょう**
  窓ガラスとワイパーのゴムが凍結してくっついてしまうことを防止するため、ワイパーは立てた状態で駐車します。



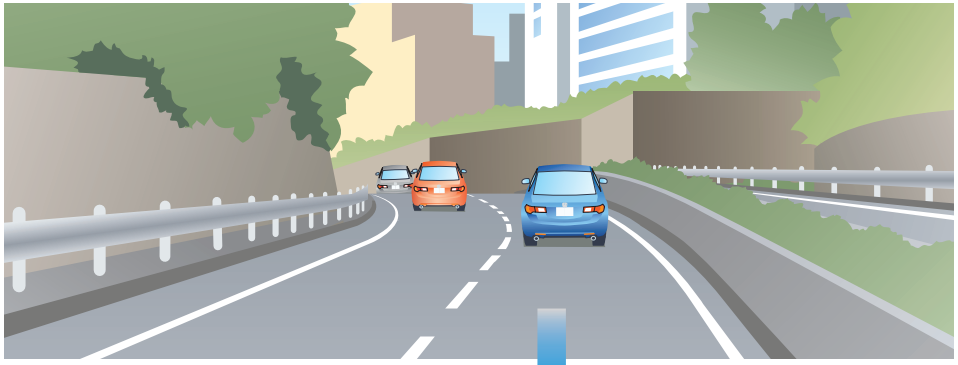
- **パーキングブレーキはかけないで輪止めをしましょう**
  パーキングブレーキを引いておくと、凍結して戻らなくなることがあります。寒冷地ではパーキングブレーキをかけず、オートマチック車の場合はＰレンジに入れて、マニュアル車ではギアをローまたはリバースに入れておきます。さらに必要があれば輪止めをしておくとよいでしょう。

お客様相談センターはこちら！➡ 0120-112010（イイフレアイオ）

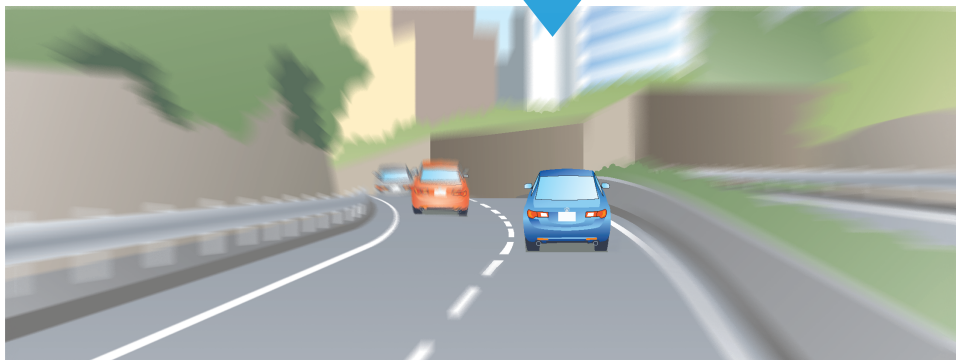
運転時の視野の変化に 注意しましょう

**クルマを運転するときは、目から入ってくる情報が最も重要になります。
高速道路などで速度が高くなるにつれて、運転者の視野は狭くなり、遠くを注視するため
近くが見えにくくなります。速度を出しすぎると危険な状況の発見が遅れる場合があります。**

低速の視野（イメージ）



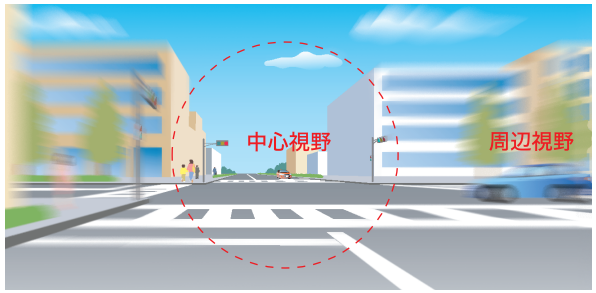
高速の視野（イメージ）



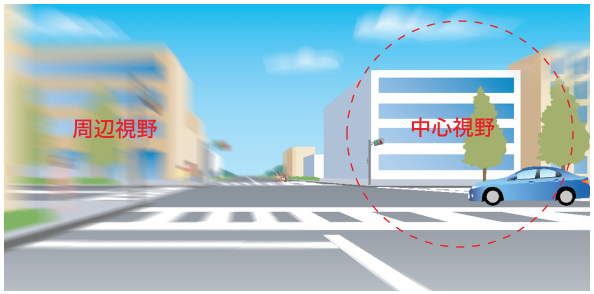
動体視力は静止視力に比べて低くなる

視力には、動きながら、または動いているものを見る動体視力と、静止したまま静止したものを見る静止視力があります。クルマの運転に必要な動体視力は、静止視力に比べてかなり低くなります。また、速度が高くなればなるほど、対象を注視する時間が短くなり、見落としや見間違いが多くなります。高速道路などを高い速度で走る場合には、速度の出しすぎに十分注意しましょう。

正面を見ているときの視野（イメージ）



視線を動かしたときの視野（イメージ）



中心視野と周辺視野

視野は中心視野と周辺視野に分けられます。クルマを運転するときに、周辺視野で交通状況の変化をとらえたり、危険を発見することはできますが、正確にはっきりと見るためには対象を中心視野の中に入れることが必要です。特に交差点などでは、視線を動かし、中心視野の中でしっかりと安全確認をしましょう。

Safety one point

急な明るさの変化に注意

上映中の薄暗い映画館に入ったとき、すぐにはまわりの様子が見えませんが、しばらくすると見えるようになります。これが暗順応です。明るい所から暗い所に入る場合、目が慣れるまでには、4〜5分かかります。逆に暗い所から明るい所に慣れる明順応は通常1〜2秒で回復します。トンネルに入るときなどは速度を落とし、車間距離を保つなどの注意が必要です。

お客様相談センターはこちら！➡ イイフレアイオ 0120-112010

万一クルマが故障した ときの対処法を覚えておきましょう

クルマが故障や燃料切れなどで走れなくなったときは、他のクルマの通行の妨げにならない安全な場所に駐車しましょう。高速道路の場合、十分に注意し、路肩あるいは路側帯に駐車しましょう。

■一般道路

もしも一般道路で故障したら

クルマが故障した場合、他のクルマの通行の妨げにならない安全な場所に移動しましょう。やむを得ず路上にクルマを止める場合、ハザードランプを点滅、停止表示器材などを後方のクルマが確認できる場所に置き、トランクを開けて駐車していることを後方のクルマに知らせます。
そして、道路外の安全な場所で待機し、Honda四輪販売会社などに救援を依頼しましょう。

＊停止表示には停止表示板や発炎筒などがあります。状況に応じて使い分けましょう。

■高速道路

＊高速道路でやむを得ず駐停車するときは、停止表示器材を設置することが義務づけられています。

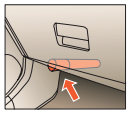
もしも高速道路で故障したら

高速道路での故障で、やむを得ず駐停車するときは、次の順序で安全にクルマを止め、救援を待ちましょう。

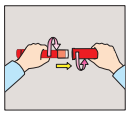
1. ハザードランプを点滅させて、クルマを路肩、非常駐車帯等の安全な場所に停車させましょう。
2. 後方の車に十分注意し、他のクルマが確認できる場所に発炎筒や停止表示器材の設置等必要な危険防止措置をとりましょう。
3. ガードレールの外など安全な場所に避難します。
4. 非常電話や携帯電話で救援を依頼します。

＊高速道路上での修理はできるだけやめましょう。

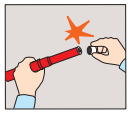
発炎筒の使い方（一例）



格納場所から取り出します。



本体をひねりながら取り出し、逆にして差し込みます。



キャップ頭部のすり薬でこすって点火します。

適切な場所に置き、素早く退避しましょう。

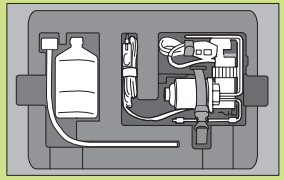
＊点火するとき発炎筒の筒先を人に向けないでください。また、ガソリンなどの燃えやすいものの近くで使用することは厳禁です。
＊発炎筒本体の使用方法をご確認ください。

Safety one point

パンクのときの対処法

取扱説明書で事前に自分のクルマのパンク対処法を確認しておきましょう。車種によっては応急スペアタイヤ（テンパータイヤ）を搭載したものもあります。

接地面にクギやネジなどが刺さった程度であれば、修理は可能です。応急修理が不可能なときは、Honda四輪販売会社などにご連絡ください。



お客様相談センターはこちら！➡ イイフレアイオ 0120-112010